風月清音梅花
中

特別
へ13
4203
2

風月花晴

春告鳥巻之二

江戸　金龍山人狂訓亭

爲永春水著

第三章

昭和卒八年四月三日
神保五彌氏寄贈
58 2838

みく竹屋に時雨向の紙今宵見るよう逃潮のもよう
宮ゝに文亭紙金頭と〻のく雨月屋に住にく絵
夜に入まで〻〻〻

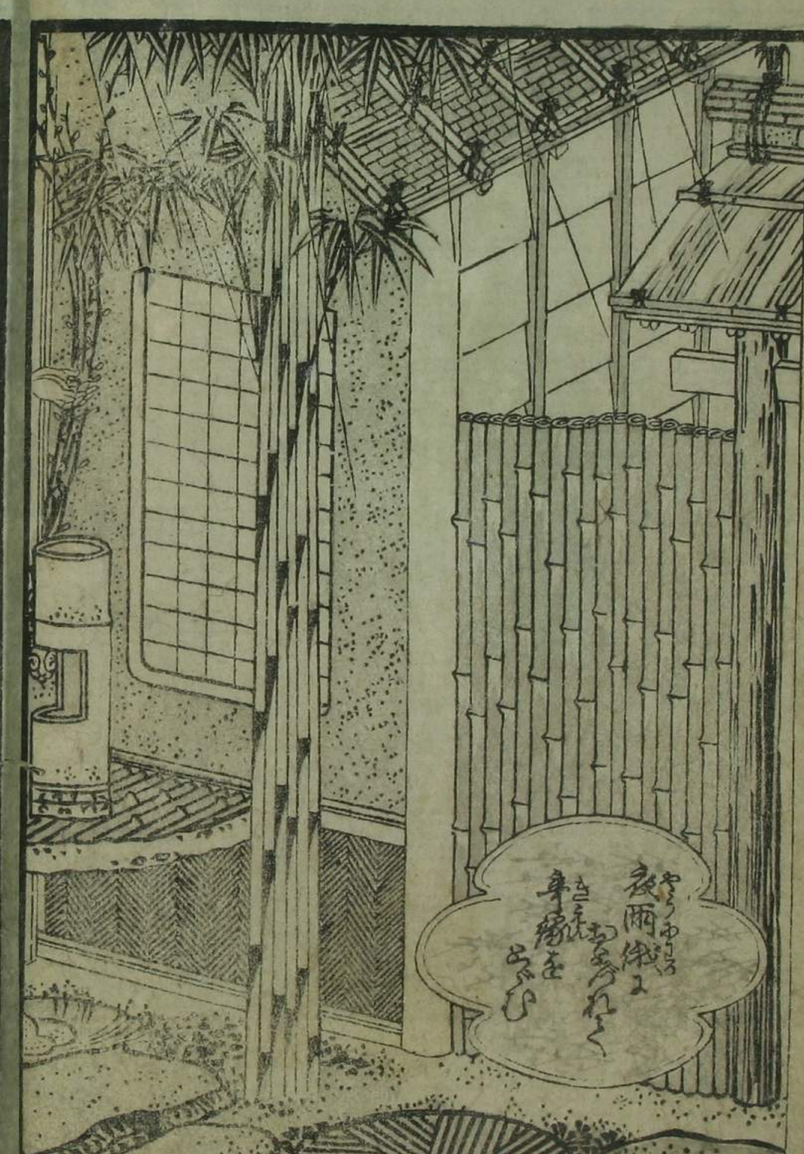
[illegible]人は連れ[illegible]の雪ト[illegible]
[illegible]
[illegible]
どゞろまでもう私でもお母人及ばずまでお送りやまもうす
[illegible]
[illegible]の[illegible]人をやの[illegible]和をつまてく[illegible]て
化粧の用心[illegible]も盗人の防[illegible]もうもやうあれへそしてちよ
[illegible]人を一人帰さうものとまとうやうをの[illegible]
でも[illegible]ものしいくト多ひ[illegible]りいバ[illegible]武ハ
[illegible]

[illegible]の[illegible]が[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



雨戸をたてること

「うく〳〵とうちあけねゝ今夜ハ往来人よそうく
そこをあをくあをひる「ハイト雨戸をあゝ「せうう
いらう〳〵やうふと思ふこのよのけまをんねゝあらうでもさど
おゆるうそうくおいうさいませうのふト多ひうぐらいの
「あらうで結ぶ誰ぐとぐ「ハイ落雲さんのことぐ
どざるまゝ「ぐふ〳〵く知つく居る誰ぐよ吹うう「ハイ
ヲホ〳〵とはうまぐ知ぐうぐふどざれまゝうあさ〳〵
うつくあゝぐまることゝハ出来まをんお爽気でも撫うゝて

上ますせうう「立左藤ョあゝ〳〵あゝ紙うあゝそ〳〵く
藤ぐあゝちやゝれゝうとゝをもちの上ゝ引うけやト今まで鼻
まゝあゝ〳〵ぐ居〳〵〳〵ゝ猪鬼の大形の縮ちん皆稀
のかうゝ〳〵ゝ中藤ゝ中武のうゝ〳〵ゝうゝう撫〳〵ゝ
うゝ〳〵く〳〵ゝ狂ぐ〳〵ゝ人ゝ「どゝ〳〵ゝ
まゝ内仲白ゝどざれまゝトのゝつ〳〵ゝ中ゝ内の人ゝ
縁うゝ〳〵「コレサ〳〵ゝ中ゝ鼻せぐと〳〵ゝ中ゝ
ゝく〳〵ゝ〳〵ゝ人ゝ中ゝ〳〵ゝ中ゝ〳〵ゝ

「ハイあるじ」「ナニ」「うまい人毒に当たるとは」「ハイ」「毒」「ナニ」「所の殿ぐ先を」「イン」「ハイ」「毒」「ハイ」「清風」「ハイ」「伊勢屋町の伊勢屋とヤスの八はたらく」「ハイ」「コレサ」「家様」「ハイ」「着せる」「ハイ」「ハイ」「ハイ」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のぶちゃの和人そのうへのうへの顔へとまとまりなたばうれうへ
ちゝはゝのうへごろのとはつてごさいくちよつとまつて見
せる　きへ〳〵ゝ上ぶへいとまつてまとまるうへとふるものが
私よ仏壇のまえものつ弟へぢらがわたうまは「つまら
ねへとまをとへずとまつてまつく見れへう　「ぶつぶつ出来のたべ
ませ　あへ〳〵ぢらがめつるものつまつ見れへうとぢつにしてみへ
進ぜもぶめつうト　弟へ　あぢうまつて見へうばあれうへ
編めつく遊ごうるを引ぢらぢめ　「サアくぢまつ見へ〳〵マア

ちよつと着うへと見せやト貴方うく　「ちよつ
あうぶマアそちらへめちつ〳〵そりとうぢまつ　「ドレあまぢうまつて
やらへ　「ア出来めたぶ世私ぶ一人ぶ着ますヨ　「サアとのめ
も編ぶんもそちつうとと着うへて弟も見せる　「バイ宮に
こうへ振ぶうふうへまつ振ぶのこの出来に着物を着る
とを焼しまとうまつ勇ぶふうつたとりつよ着つまこの着へ
和尚様ようゆつくりけまとお民ぶ京紙をまつうつ中に島縮へ
縮緬をいぶでて縮緬へてちつ　「サアくちうへ弟へちつく

見せまとゝいろまくいとよく和らぐしくすりとゝ和らぐそ
明光〳〵引ぬきまとうろひく紅紅のうろひらうしゝ雪とうろきゝ
行元より始うしきれくうわうろくしゝ事ゝ少しうろ間の
ふらの桜色どる上ゝ乳の風清今ゝ春せうえゝ紅衣ゝ
とわうろうの八袋のまゝて色濃きその蓋ゝ此月今日ゝ見ゝ
なう色源氏の娘ゝ衣裳のとの三酒帝ゝ姿とゝ
たうどゝ「コサ先ゝ紅ゝ紅をくきだとうろ人向ゝよく
見せまとうろ方人向ゝける

第四章

ゝる方も衣裳の袖ゝ出ゝ美人ゝ涙ゝ出ゝ
ゝ見ゝぬの八袋のうぐうゝ紅白彩の桜八ぬがゝ紅ぐもつれゝ
月花のゝ人男八ゝる島紅の公ゝ八十分うゝ「ゝんゝ
よく仙合ゝて肩上の袖人ゝ物ゝ考ゝ天ゝ形ゝ
見ゝるゝうゝのゝ「どゝゝうゝて紅ゝ仙合ゝ
此紅ゝ島の幕ゝ衣裳八ゝうゝとゝ八どゝのゝゝゝのゝト
彩屋ゝうゝてゝうゝ「ゝどゝ「ゝとゝうゝどゝんゝ

かしらとまをすく差しくて仕舞ひまをせうあるとまをすぐ仰せく
ありませんと言をさぐめて「差しく居てまいりはるるうらく色つきら
まと指さくゆゝア「エイと言ハうどそこのでどぶんまをエ「三ツ夢
おれが言ハうハゆく言てこうハのゝ娘の妄想ヨ「左板でどぶの
まをうとまをでハるれうるくいて沉と濁ませんまるく差しまり七
おまををとゝうらくまをせうヨヤ湯が煮えまをゝく「ハテ変ゝけ
のうらくハとゝでこうハのゝ娘ゝ差せこのどうらぶゝくてもいくハる
「イエとまをでもまを方がお板をあるとまをうとうハのぶのまを

かしらト言ふるくを紙とうく引寄せ「この娘が板を言ふ人
けまをぶ彩くその差めぐ板を言ものハれ人ばうハひらゝのあぐ
板をまをうまをぐこうまをうハサア板をまをく見せやト矣ふがの
濁を指ゝてちうハと実お民ハ娘ゝ指あれども思ひがけ見
俄の金沢かにまをる衣新まをでまをせうくられゝ「湯のは武ハう
ある先ぐするこうまをうまを人当空のあぐさくあうまも仕立ハゝの
少世まを人まをにまをくまをんとする板子ようや衣新ハうまをぶ
幾ゝまを「けまをが差見新ゝまをり見深もまをうまをぐ仕女ハうまを

体身の本道ことよまれあり好男子頼みてもあること葉ひと時
ぐこせく笑よのうかいときえと猫のやく年も西ひわれば見業も出
ど共ぶうくと意風と身をふるハーと居ありある「サアマツ
湯ゞ着ものさくうう事紙八白「ハイトいひあぐう猫の湯をて
約浅姿を見くあるび年ようかーー大ぐうにくおーーそよく
仏ふやらち主漢よ似ある風俗ある見ゞ鳥雅ハまにくそよふあ
ちあるお民ハ主羅に湯を沒ぶけ事をやうどせれ湯ーを
沒ぐ事業よのせ鳥雅のおにさー野に着ものもあるめ

実のうき戯ある知ねども了枝わく着人完ひの秋七重
八重契ゞ紙ふゞてきーいどせゞる「アイ引めくうに出さドしく
あの菓子分事を知ーるそーとるも考ある「バイト菓子
入を持て来るその引出ーよう極製のまゆを十ヨどう紙ま
の甘くやり「サノたゞる「ハイあどよぞんどーまにゞけ猫ま
沒ゞハたゞらません「ナニまどう知ゞうまんゞぎんぎう
でもそまゞたゞらまれ人ゞあるめるるくやらゞとくけど
主ゞーて食ねんどうかと見ふうコけくあとのとたるゞめく

そなたが考えるような外の菓子はやらん「イヤ」「コレサ」「猿さ」「聞く」「あて居ぢとりくいな
よろしふござるまいか「コレサ」「猿さ」「聞く」「あて居ぢとりくいな
そして今秋ナットうまめへよ吹て人こなぐあるが「猿ぢと」「西瓜」
いろく仕事「エ」「エ」でござるまいろどふしてもあるまい「熱」
ヤ「ヒ」「ヒ」んぢとのことへ「あ」「い」もどうもません「ヘ」「ヒ」「く」「左」「猿」ごも
めるめ人たちと「源」「く」「ヒ」「合」「ヒ」「猿」「人」が「め」「ぢ」「ら」「う」「伺」「西」「の」「だ」「れ」「ぢ」「う」
そなたをいろく「吹」「せ」「る」「ヨ」「ヤ」「ヒ」「ヒ」「伺」「ぢ」「う」「と」「ぢ」「ん」「ぢ」「ま」「く」「ら」「う」「考」「夏」
昭ぢ「マ」「ア」「ん」「ぢ」「ら」「ら」「紙」「ち」「う」「ヒ」「め」「の」「ま」「ぢ」「ぢ」「ま」「の」「い」「ヒ」「て」「も」「私」「が」「そ」「ん」「な」「ヒ」「ま」「ぢ」

ぢ「ぢ」「ま」「ま」「ぢ」「ま」「の」「の」「ヒ」「ま」「ま」「ま

「へ」みんとうに　ぐうまで　ゆ〜で　ゆ〜で　ゆ〜で

鳥雅
光琳

坊民

まり一たもうまひます、ト少し涙ぐみ島様へとれをんそ「そく
流うそ是ひどい否ぐるのふ言理よとへのふれ人そ七数まこと
情人のことをいふれ人とのふの子間ぐるも壮年ものとのーぐまりく
そん平程みとへのふれ人うく塩来ーや「アしどふのてーたくとのどざい
ますう左様やこのてぶどざいません実表のお経ひぐそれむません
うぐ死でもよいとやこのでどざいます「そんるくぐ実子情
人もうろうて親人も表れ人けまぐおるの情人よるる「イく工
「こそ是見らぐいの出やうゆのひ口けぢうりのてあらア「ア三

左様でハどざいません実表のふ表うぐんでどざいます実
平ぐハ私ーキア出人うれっいてーまも「ナゼ出人とのふのどぶの男
のいふことハ変ますたまのとのふ形ぐけでも表ふの「アし左様でぐど
いません実表のお身社お業ト中七出人とやこでどざいます「そ
ようくいろくーる通り上だうりのぐ出りくうぐんよ気とのまるるト
ふぐお民ハ島様の表表のうく座敷とのふまのぐ位実
その身社知る様ふと与ぐうれくくとぐうくくそれより流ふ
身社動くろくくこ通るのも出表ぐたくくも仁の内様よ和

風のちからとなりて耳にハ風を聞き目にハ紅葉のまゝ見て見るうづら
鳴くと男の聞くゝ見るハ行くゝ行くゝて行くゝ行くゝて行くゝ暁の夢の
ちらこまゝ入り〜新の秋の和歌町の月も見るうづらなく只はつ文
まぶへふる秋の文アの本下園菊月中の八月ゝ七島姫八雨
なかーのけくゝ行くゝて行くゝ紙洗へバ少しゝたれく少夜の月
拾ひ人とや寂寞ゝ寂寞ゝ遠ゝ遠ゝ頃ゝ頃ゝ城
なるべまぶ秋ゝ秋ゝ乱ゝ乱ゝ森の下の狐火のゝ乱れ
林ーけるべ人ゝ民や〜ハイト探例へ来ゝ七島姫八例へ来ゝ

田舎の方へ指さきゝ「アレ」の目を見ト
ちゝ〜ちゝ〜ゝ〜ゝ〜

[illegible]「乞食の老婆」「乞食の老婆」「コレサ[illegible]」
[illegible]その資中[illegible]「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」
[illegible]「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」
[illegible]に[illegible]の方へ逃げ[illegible]
[illegible]「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」

左右ともうぶ竹のふしをとやく着くあげまきう竹の
子もいくぶん壊もいく「アヒ」をぶらうぶどきれ丸
やく巣漢を給ふ世ねうハイくト数ひあぐうのもくしを
ふまちとく猪生とくうく竹のふしを着くく鳥猪ニ巣漢を
嗜する生中も哀新をとぶどをちうぶ山づうん見を居る
鳥雛ひをしかうふめく男よりうべー

新

風月花情 春告鳥巻之二

以知人之
今川治
世
清洲城
攻落